

乃木

のぎしゅうマップ

周遊地図

湖と里山にいだかれて



乃木の朝

【田和山遺跡】

松江市乃木町32-3。松江市の南郊、市街地とはずれにある通称「田和山」と呼ばれる独立丘陵上に存在する。

田和山遺跡は、弥生時代前期（B.C.200年頃）から中期後半（A.D.50年頃）にかけての環濠を持つ集落遺跡である。山頂部、それを三重に囲む環濠部、環濠外に広がる西側・北側居住部の3つのエリアで構成されている。2001年、国の史跡に指定され、現在は松江市立病院に隣接する史跡公園として整備されている。遺跡の山頂部からは、宍道湖や松江市街、大山などが一望でき、眺望が良いロケーションにある。田和山史跡公園は、市立病院の進入路を挟んで

「弥生の丘 田和山館」をご利用ください。
場所：史跡公園駐車場横
開館日：土・日・祝日（9:00～17:00）

北側の「史跡公園」と南側の「自然学習の森」に分けられ、史跡公園は歴史学習の場として、自然学習の森は自然観察の場と位置づけ整備している。それぞれの活用事業や維持管理は、市民グループが中心となって行っていて、史跡公園では「田和山サポータークラブ」が、自然学習の森では「里山を育てる会」がそれぞれ活動を行っている。



乃木の夕

【嫁ヶ島(竹生島神社)】

松江市浜乃木町1番地。もと国有地であったが、太平洋戦争後、乃木村への譲渡申請をした結果移譲された。周囲260m、面積2,600㎡(約800坪)、宍道湖に浮かぶ唯一の島である。出雲風土記には「野代の海の中に蚊嶋(かしま)あり」とあり、それが嫁ヶ島(かしま)。現在の嫁ヶ島(よめがしま)と呼ばれるようになったようである。

島には竹生島神社があり、市野島姫命(いつしまひめ)《奇財天》が奉られ、豊漁の神、学問、音楽の神として崇拝されている。

近年は夕日スポットとして、対岸には見学施設や駐車場も整備され、市民や観光客の人気を集めている。

【嫁ヶ島伝説】

昔、村で評判の美しい花嫁が、何かにつけて姑に小言を言われてはじめられていた。ある日、暗くなってもその嫁が家に帰ってこない。横で大家族は四方八方手を尽くして探したが見つからない。それを聞いた村人たちは嫁に同情し、船で探し回ったがどこにも見当たらなかった。気立てのいい嫁だっただけに、夫も村人たちのためを思った。ところが、数日たったある日のこと、突然不思議なことが起こった。宍道湖の水の中から、その嫁を乗せた島が浮かび上がったのである。そのことから「嫁ヶ島」と呼ぶようになったという。

～乃木郷土誌



乃木公民館までのアクセス

- 電車で ○JR乃木駅下車、徒歩約7分。
- バスで ○松江市営バス南瀬内回り線、乃木小学校入口で下車。徒歩約1分。
- 車で ○山陰道松江中央ランプで降り、西へ3つ目の信号を右折。北へ3つ目の信号を左折。所要時間/約5分。
- 国道9号線嫁ヶ島入り口から南進。3つ目の信号を右折。所要時間/約5分。

【編集・発行】
乃木地区わがまち自慢発掘プロジェクトチーム

【連絡先】
松江市乃木公民館
〒690-0044 松江市乃木町4-1-5
TEL:0852-21-4931 FAX:0852-21-4553
平日9時～17時開館

神社・仏閣を訪ねて

浜乃木・上乃木コース



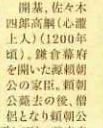
建物管理者からの申し出により削除



野代神社は、乃木地区内で神社や祠の合祀・統合の最も多い神社である。天平時代、開拓者によって現地に妙見社として創建し、その後、上乃木字賀神社合祀により、野代神社と改称し、続いて上乃木福富神社の合祀によって、当地力の総氏神として崇敬のほかに厚く重鎮あられた山由緒ある神社として特別神社に指定された。



開基、佐々木四郎高綱(心道上人)(1200年頃)。鎌倉幕府の関白源頼朝公の家臣、頼朝公薨去の後、僧侶となり頼朝公の妻より賜った阿彌陀如来を尊し、出雲に下り、普光寺を開山する。観音堂(福王寺)は、出雲観音霊場三十二番札所。当寺開山(祖上人)の墓、乃木大將一家遺徳塔、破黄島戦役供養塔、大聖五輪塔などがある。



上乃木の当買に、三百年もの昔(1705年頃)に創立された神社で、祭神は宇賀之御魂命(は穀物の神様、明治初期、一度は野代神社に統合されたが、当買稲荷神社の存続を願う人達は「神社に敬請願書」を交差し出した。結果、これが認められ、元の社地に神社を建て、現在は当買を中心とした人達によって神社の管理運営とお祈りが行われている。

神社・仏閣を訪ねて

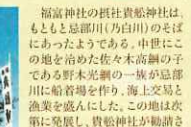
乃白・乃木福富コース



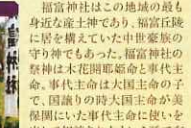
福富神社は、もとと忌部川(乃白川)のそばにあったようである。中世にこの地を活めた佐々木高綱の子である野木光綱の一族が忌部川に船着場を作り、海上交易と漁業を盛んにした。この地は次第に発展し、貴厳神社が勧請され、市や祭り、神事なども行われた。その後、見聞しが狭く水害もない現在の場所に移転されたようである。



福富神社はこの地域の最も身近な女神であり、福富丘陵に居る構えていた中世家祭の守り構でもあった。福富神社の祭神は本花園姫命と事代主命。事代主命は大國主命の子で、因縁の時大國主命が美保原にいた事代主命に使いを出して相談されたといひ、神徳は「契約有利・承諾新開」。



927年「延喜式」という文獻に載っている乃木地区において唯一の式内神社。祭神は古事記等に於いて天孫降臨の際に天神を鎮座案内した御神である「鏡山彦命」と天孫降臨の際に天神を鎮座案内した天つ神の「天織女命」を祀る。二社の神々は天孫降臨であり、除災・室内安全・事業繁栄・交通安全の守護がある。境内社に倉屋子神社は製鉄に関する神々が祀られている。



宗匠・普賢宗本尊・阿彌陀如来ご開山は本寺(洞光寺・松江市新町)の第九世僧室全大和尚。開山年月日は不詳であるが、本寺の隣居寺として建立された。境内には約180年前に建立された地蔵尊が安置されている。また、本堂奥には此門天像も安置されている。

古墳・自然を巡って

乃木全域コース



全長34m、前方部長14m、同高さ2.25m、後方部長22m、同高さ4mの前方後方墳。北側から出土した高杯形埴輪が、県内では最も早く、ほぼ6世紀前半頃のものと推定され、昭和57年島根県の史跡に指定されている。



標高49m、面積2.6haの丘陵地。山頂には展望台、前方後円墳などがある。山頂までの道のりは340m、樹齢50年余りのアズ、ヒメキの林を取り囲むように常緑広葉樹や落葉広葉樹が混成し、林床には、100種を超える草花が四季を彩り、多種な生物とふれあい楽しめる。



乃木町の忌部川に架かる勝負橋は山雲阿曇土記にも「野代橋」として載せられ、長さ17m、幅4.45mの橋だっ。この上を渡る道が古代の山陰道で、公務の急使が馬車で駆け抜けた。出雲大社の官司出雲国造が行列で通ったりした。中世、足利と毛利の戦時、ここで出雲の大きな戦があり、それから「勝負橋」と呼ばれるようになった。



松江バイパスが東から忌部街道まで通じていた平成ノ、この方面に造る土造方墳の工事を調査で見つかった。山全体に広がる遺跡で、弥生～鎌倉時代に続く大集落跡。太古(田和器時代)から江戸時代までのおびただしい文化財(石器・土器・礎石跡・土瓦など)が見つかった。



競馬場跡

昭和2年に地方競馬法が公布され、全国各府県に競馬場数が指定されるに至った。島根県では出雲と石見の2箇所に設置が認められ、乃木村が申請した浜乃木善光寺裏の競馬場はその一つとして建設されることになった。昭和4年10月に完工した浜乃木の競馬場は当時関西一といわれ、走路は楕円形で1周1,000m幅は10m面積は約7,000坪で、6,000人を収容するスタンドを備えていた。工費4万円(昭和17年乃木村の決算額は2万円)を投じて完工した松江競馬場では、第1回松江競馬大会が3日間わたって挙行された。当初は大会も盛況続きであったが、不況による経営不振と満州事変の推移などで次第に衰退し、昭和10年に廃止となった。第二次世界大戦後、競馬場跡地は海外からの引揚者などの住居地となったが、競馬場跡地として原型を今に留めているのは全国的にもめずらしいという。



古代山陰道

日本が一つの国にまとまった頃とされる西暦700年にできた「大宝律令」では、全国を山陽・東海・山陰道など7つの街道で結び、また駅伝制で通信を整えた。山陰道は大庭の国片のそばから真直に伸び、野代橋(現在の勝負橋)を渡って玉造・穴道と通じており、道幅は3mから9mくらい、直線的で16km毎に駅(うまや)があり、「大庭の黒田」「穴道」の駅では2町歩の土地で常に5頭の馬が飼われ、駅長・駅子が祀られていた。公務の急使などは駅鈴を鳴らして馬を走らせ、駅ではその音を聞いて替え馬を用意し急使は馬を乗りかえ(または乗り継ぎ)次へ向かった。野白の丘(福富丘陵)には今も山陰道の跡が昔の規模のままでは200m残されていて、その昔「出雲国造(さん)」行列で通ったり、通い道として親しんだので「国造街道」「千室街道」などと呼ばれる。当時の山陰道の中で、今にいたって確認されたのはここだけである。



	道路		神社・仏閣コース (浜乃木・上乃木方面)
	山陰自動車道		神社・仏閣コース (乃白・福富方面)
	JR山陰本線		自然散策コース